

議案第 1 号 2016 年度活動報告並びに収支決算の承認について

《2015 年度活動計画》

- 1 農業改革・農協改革問題や TPP 問題を重視した取り組みを行います。
- 2 協同組合人の育成に取り組みます。
 - (1) 「国際協同組合デー記念フォーラム」の開催
 - (2) 「絆で創生！ふくしま STYLE」シンポジウムの開催
 - (3) 協同組合人の育成
- 3 JA 福島中央会の進める「農地の放射性物質濃度の測定を利用した本県農畜産物の安全・安心確保対策」に協力します。
- 4 環境・エネルギー問題プロジェクトを立ち上げます。
- 5 人口減少・少子高齢化対策に関する研究に取り組みます。
- 6 福島大学の農学系の教育、研究に協力します。
- 7 福島の子ども保養プロジェクトへの協力と風評払拭の取り組みを行います。
 - (1) 「生産農家に勇気を！福島の子どもたちに元気を！一思いつなげて！美味しく食べて、コヨット応援」企画を支援します。
 - (2) 日本生協連が呼びかける「被災地を知る・見る取り組み」に協力し、福島県の農林畜産業、水産業の現状について抱いている様々な“誤解”を“理解”に変えていく取り組みを進めます。
- 8 その他、本協議会規約が定める第 2 条目的、第 3 条事業に基づく活動に取り組みます。

1. 農業改革・農協改革問題や TPP 問題を重視した取り組みを行います。

7 月 19 日に開催した「第 94 回国際協同組合デー記念フォーラム」において、アジア太平洋資料センターの内田聖子 事務局長より「TPP 協定の内容と今後 ～私たちの暮らしに迫る危機～」と題して基調講演をいただき、TPP 協定内容が食べ物や医療など私たちの暮らしにどんな影響を及ぼすのかを改めて認識し、参加者一同により、国に対し国会における徹底した審議をつくすよう求める申し合わせを採択しました。

【TPP 運動の経過】

TPP 交渉については、平成 22 年 10 月に菅首相（当時）が参加の検討を表明以降、我々は、TPP は国民に広く影響を及ぼすものとして、農林水産団体・消費者団体・医療関連団体など県民各層や全国段階との広範な連携のもと反対運動を長年にわたり展開してきました。

しかし、平成 27 年 10 月に交渉参加 12ヶ国の間で大筋合意に達し、平成 28 年 2 月の署名式をもって交渉は終結し、交渉で合意された農産物の関税については、日本はかつてない多くの品目での関税撤廃に加え、重要 5 品目でも米の特別輸入枠の

設定、牛肉・豚肉の関税大幅引き下げを受け入れることとなりました。

平成 28 年 12 月にわが国の国会で批准手続きを完了しましたが、一方で米国のトランプ新大統領が TPP 離脱を表明したことから、協定の発効は見通せない状況となっています。

しかしながら、平成 29 年 2 月の日米首脳会談で米国との新たな二国間経済対話の枠組みを開始することが合意され、さらには、現在交渉が行われている日 EU 経済連携協定(EPA)や東アジア地域包括的経済連携(RCEP)など、今後も自由貿易体制の強化を目指した政府間の取り組みは続いていくものと思われま

【農協改革の経過】

昨年 11 月 11 日に、首相の諮問機関である規制改革推進会議が JA 全農の解体的な改革や地域 JA の信用事業の縮小を迫る提言を発表しました。

この提言に対し政府与党、および JA グループや協同組合関係者からは、規制改革推進会議の提言内容の正当性を疑問視する声が上がったほか、行政学の見地からも「日本国憲法が保障する『営業の自由』に抵触する疑いが濃厚だ」として否定的な意見が出されるなど、協同組合の専門家にとどまらず大勢の有識者から提言への意義が唱えられました。

規制改革推進会議の提言は徹底した協同組合不要論で、協同組合の歴史と理論に対して不勉強の一言に尽きます。

今回は、最終的に与党や JA グループなどの猛反発で問題部分が取り除かれたとはいえ、協同組合の特性を理解しない不当な介入は、政府への信頼を大きく損ない、禍根を残しました。

安部首相は 11 月 28 日の規制改革推進会議で「改革の進捗をしっかりとフォローアップしてください。」と発言、今後も同会議が関与し続ける余地を残しました。

現在、JA グループは自己改革に取り組んでいますが、同会議の在り方を見直さない限り、今後も現場の意見や実態を踏まえない農協たたきが再燃する恐れがあります。

今後の農協攻撃に備える必要があります。

2. 協同組合人の育成に取り組みます。

(1) 「国際協同組合デー記念フォーラム」の開催

国際協同組合デーにあわせて、協同組合の役割を確認するとともに、TPP 協定が食べ物や医療など私たちの暮らしにどんな影響を及ぼすのかを検証するために開催しました。

日 時：平成 28 年 7 月 19 日（火）10:45～14:30

場 所：パルセいいざか

内 容：① 地産地消ふくしまネット受託研究報告「風評被害払拭に向けた放射性物質分布マップ作成並びに再生可能エネルギー活用促進に関する研究」

発表者：小山良太（福島大学経済経営学類 教授）

石井秀樹（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 特任准教授）

② 講演「TPP 協定の内容と今後～私たちの暮らしに迫る危機」

講師：内田聖子（アジア太平洋資料センター事務局長）

- ③ 相互扶助組織としての協同組合の理念を踏まえ、それぞれの立場で最大限の役割が発揮できるよう、ともに連帯して運動を展開することを参加者一同で申し合わせた。

(2) 「絆で創生！ふくしま STYLE」シンポジウムの開催

原発事故からの復興に取り組む漁業者の現状の紹介と、福島豊かな自然との共生をめざした、再生可能エネルギー発電の可能性について考えました。

日時：平成 28 年 12 月 1 日（木）13：15～15：30

場所：JA 福島ビル 10 階 1001 会議室

内容：① 基調講演「福島県における地産地消の推進と福島大学食農学類の役割」

発表者：小山良太（福島大学経済経営学類 教授）

② パネルディスカッション「テーマ『循環と共生の“うつくしま”福島』」

モデレーター：林 薫平（福島大学 経済経営学類特任准教授）

パネリスト：安齊雄司（パルシステム福島 専務理事）

八多宣幸（福島県漁連災害復興対策プロジェクト チームリーダー）

朴 相賢（JA 福島中央会農業対策部 特任研究員）

- ③ 環境に優しい安全で持続可能な再生可能エネルギーの導入の必要性を改めて認識し、県内産の資源を活かしたバイオマスの利活用など、各関係機関・団体と連携をはかりながら再生可能エネルギーの可能性をさらに追求していくことを参加者一同で申し合わせた。

(3) 協同組合人の育成

福島大学の 2016 年度前期の講義科目「地域論」の一部(6 回分)を「協同組合講座」とし、本協議会も支援した。同講座では、協同組合史・現代生協論・現代農協論・協同組合金融・国際協同組合論・地域再生における協同組合の役割について、各 1 回を割り、オムニバス式に講義を実施し、学生に協同組合についての教育を行った。

3. JA 福島中央会の進める「農地の放射性物質濃度の測定を利用した本県農畜産物の安全・安心確保対策」に協力します。

- (1) 風評払拭をはかるため、JA 福島中央会と連携し、イベント等で本県産農畜産物の安全を訴えました。

① 「2016 よい仕事おこしフェア」

主催：城南信用金庫

日時：平成 28 年 8 月 2 日（火）10:00～18:00

3日(水) 10:00~16:00

場 所：東京国際フォーラム

内 容：福島県の観光・農産物のPR（パネル展示、パンフレット配布）
アンケート実施（福島県農畜産物の安全性に関する）
アンケート協力者へ米をプレゼントした。

②「森と遊ぶ交流会への協賛」

主 催：福島県

日 時：平成28年8月7日(日) 10:00~16:00

場 所：霊山こどもの村

内 容：パンフレット「福島県農畜産物の安全・安心の取組」配布
パネル展示「福島県農畜産物の安全・安心の取組」展示
抽選会の景品を提供した（桃、米、野菜）

③「第45回神楽坂まつり（ほおずき市）」での県産農産物PR

主 催：神楽坂まつり実行委員会

日 時：平成28年7月28日(木) 16:00~21:00

内 容：桃、キュウリ、ジュースの販売

④「東京都食育フェア」への参加

主 催：東京都

日 時：平成28年11月12日(土)・13日(日)

場 所：代々木公園ケヤキ並木通り（東京都）

内 容：アンケート実施（福島県農畜産物の安全性に関する）
アンケート協力者への農産物プレゼント。
農産物等販売

⑤「東京都生協連学習会」での講演

主 催：東京都生活協同組合連合会

日 時：平成28年11月21日(火) 10:00~12:30

場 所：東京都生協連会館

内 容：JA福島中央会 川上雅則 常務理事が、震災・原発事故以降にJAグループ福島が取り組み続けている食の安全・安心確保対策や、福島
の農業の復旧・復興に向けた課題について、また今後の構想等について
講演した。

(2) ふくしまの恵みPR支援事業に取り組みました

①「東日本・津波・原発事故大震災から5年福島の今を知る学習会」

主 催：生活協同組合コープこうべ

日 時：平成28年6月21日(火) 10:30~12:00

場 所：兵庫県明石市「アスピア明石北館明石市生涯学習センター」

内 容：東日本・津波・原発事故大震災から5年を経過した福島県の現状を伝
えるとともに、米の全袋検査・モニタリング検査・試験操業など生産

者や流通団体の安全・安心の取り組みを紹介し、JA ふくしま未来が販売するりんごジュースやラ・フランスの缶詰を試食・試飲いただいた。

参加者：75名

②「東日本・津波・原発事故大震災から5年福島の今を知る学習会」

主 催：熊本県協同組合間提携推進会議

日 時：平成28年10月12日(水)10:30～12:00

場 所：熊本県合志市「JA 熊本教育センター」

内 容：東日本・津波・原発事故大震災から5年を経過した福島県の現状を伝えるとともに、米の全袋検査・モニタリング検査・試験操業など生産者や流通団体の安全・安心の取り組みを紹介し、JA ふくしま未来が販売するもも・りんごジュース試飲と日本酒の紹介。

参加者：150名

③「東日本・津波・原発事故大震災から5年福島の今を知る学習会」

主 催：生活協同組合いばらきコープ

日 時：平成28年11月7日(月)10:30～18:00

場 所：沿岸部の被災地視察

内 容：バスで沿岸部の被災地を視察しながら、車内で東日本・津波・原発事故大震災から5年を経過した福島県の現状を伝えるとともに、米の全袋検査・モニタリング検査・試験操業など生産者や流通団体の安全・安心の取り組みを紹介し、JA ふくしま未来が販売するなし・りんごジュースの試飲とドライフルーツの試食をしていただいた。

参加者：25人

④「東日本・津波・原発事故大震災から5年福島の今を知る学習会」

主 催：新潟県生活協同組合連合会

日 時：平成28年12月12日(月)10:30～13日(火)15:00

場 所：沿岸部の被災地視察

内 容：バスで沿岸部の被災地を視察しながら、車内で東日本・津波・原発事故大震災から5年を経過した福島県の現状を伝えるとともに、米の全袋検査・モニタリング検査・試験操業など生産者や流通団体の安全・安心の取り組みを紹介し、JA ふくしま未来が販売するなし・りんごジュースの試飲とドライフルーツの試食をしていただいた。

参加者：25人

⑤「東日本・津波・原発事故大震災から5年福島の今を知る学習会」

主 催：生活協同組合コープみらい

日 時：平成28年12月12日(月)10:30～12:00

場 所：千葉県千葉市「千葉生涯学習センター」

内 容：東日本・津波・原発事故大震災から5年を経過した福島県の現状を伝えるとともに、米の全袋検査・モニタリング検査・試験操業など生産

者や流通団体の安全・安心の取り組みを紹介し、JA ふくしま未来が販売する JA ふくしま未来が販売するなし・りんごジュースの試飲とドライフルーツの試食をしていただいた。

参加者：80名

4. 環境・エネルギー問題プロジェクトを立ち上げます。

JA 福島中央会と連携し、地域に根差した内発的な開発および事業としての再生可能エネルギー事業モデルを確立するために必要な情報収集や事例分析、さらには、浜通りを中心とする被災した農地(有休農地を中心に)の有効利活用案としての再生可能エネルギー導入・実施可能性について、次の調査・研究を行いました。

①福島大学と JA グループ福島・農林中央金庫との連携協定に基づく、県内における再生可能エネルギー利活用の方向性の検討や現地視察等を行った。

⇒浜通り地区における営農再開作物として、ソルガム、デントコーンの飼料作物・エネルギー作物(メタン発酵)としての評価を始めた。

②「日本計画行政学会」、「世界ご当地エネルギー会議」等に参加し、再生可能エネルギーにかかる農村型(集落型)再エネ導入に向けての方向性、課題などについて研鑽した。

③農水省主催「農山漁村を豊かにする再生可能エネルギーのちから」シンポジウムや「第5回ふくしま復興・再生可能エネルギー産業フェア 2016」、「小水力発電セミナー」等に参加し、全国の動向等について研鑽した。

④「会津電力の分散型太陽光発電所」、「土湯温泉バイナリー発電所」、「茨城土浦市食品メタン発酵バイオ施設」など県内外における再生可能エネルギー関連先進事例の現地視察を行い、導入に向けての可能性、課題などについて分析した。

⑤「福島イノベーション・コースト構想シンポジウム」や「平成28年度福島県農林水産業再生セミナー」等を通じて、県による再生可能エネルギー利活用の方針や取組状況などを把握した。また、FIT 制度(固定価額買取制度)導入後から現在に至るまでの県内外の認定状況(認定件数、認定許容量等)分析および学術誌・新聞・雑誌等の情報分析を通じて、県内における再生可能エネルギーの利活用状況や課題等を把握することができた。

※「再生可能エネルギーの取り組み実現に向けた調査・研究活動」の詳細については、別紙の通り。

5. 人口減少・少子高齢化対策に関する研究に取り組みます。

地域資源の活用による地域活性化について、「『絆で創生！ふくしま STYLE』シンポジウム」のパネルディスカッション(テーマ「循環と共生の“うつくしま”福島」)において考えました。

6. 福島大学の農学系の教育、研究に協力します。

福島大学 小山ゼミナールが、地域の活性化や震災・原発事故からの復興を目的として行っている食・農関連の教育活動、さらには同大学「農学系教育研究組織設置準備室」の活動に協力しました。

① 「おかわり農園」

主 催：福島大学小山ゼミナール

開催日：平成 28 年 4 月～11 月

場 所：福島市松川町

内 容：学生が自ら米の生産体験をすることで、福島のおいしさ・魅力と安全性の発信と地産地消のきっかけづくりを目指す、小山ゼミの「ふくしま食と農の情報発信プロジェクトチーム」活動に協力しました。収穫された米は、「ふくしま・かわまた米コンテスト」への出品したほか、11月12日に開催された「東京都食育フェア」においてアンケート回答者にプレゼントされました。

② 「第2回ふくしま・かわまた米コンテスト」

主 催：ふくしま・かわまた米コンテスト実行委員会

開催日：平成 28 年 11 月 23 日（水）

場 所：MAX ふくしま 4 階 A・O・Z 多目的ホール

内 容：本県産米は依然として風評被害に見舞われています。安全・安心でおいしい米作りに取り組んでいる生産者の生産意欲の向上と、地元消費者への PR を行い地域の米のブランドの向上・回復を目的に、福島大学が共催で実施した「米コンテスト」に協力しました。

③ 「『発酵・醸造学が福島の未来を拓く』シンポジウム」

主 催：福島大学農学系教育研究組織設置準備室

開催日：平成 29 年 2 月 21 日（火）

場 所：福島大学 L 講義棟 L-2 教室

内 容：発酵食品は本県食品産業の中核をなし、県民の食生活と食文化を支えてきました。発酵・醸造の分野について、2019年に福島大学に設置される食農学類が果たす役割を考える目的で開催されたシンポジウムに協力しました。

7. 福島の子ども保養プロジェクトへの協力と風評払拭の取り組みを行います。

- (1) 「生産農家に勇気を！福島の子どもたちに元気を！—思いつなげて！美味しく食べて、コヨット応援—」企画に関しては、カタログ販売等による県産農産物販売で、その収益の一部をコヨット(福島の子ども保養プロジェクト)に還元する手法を検討しましたが、JA および JA 全農では既に通販に取り組んでおり、カタログ作成、販売価格の設定など課題が多いため、実施には至りませんでした。

また、JA ふくしま未来より同 JA ブランド米「あだちのめぐみ」1 トン贈呈されました。

(2) 日本生協連が 2016 年度の取り組みとして掲げる「被災地の経済・産業の復興に貢献する取り組み」の具体化のひとつとして位置付けます。

日本生協連主催による全国の生協を対象とした「5年目の福島を見て、知るツアー」が下記の日程で開催されました。

- ①「第1回」平成 28 年 8 月 25 日(木)～26 日(金)
- ②「第2回」平成 28 年 9 月 29 日(木)～30 日(金)
- ③「第3回」平成 28 年 11 月 17 日(木)～18 日(金)
- ④「第4回」平成 28 年 12 月 8 日(木)～9 日(金)
- ⑤「第5回」平成 29 年 1 月 27 日(金)～28 日(土)

いずれの企画も初日は、JA ふくしま未来のモニタリングセンター視察や直売所でのお買い物を行い、2 日目は、小名浜魚市場で、福島県水産試験場の方より「福島県の海産魚介類の安全性について」と福島県漁連の方より「福島県における試験操業の取り組みについて」のお話をいただき、魚市場内のスクリーニング検査場の視察を行い、沿岸部の被災地を視察するコースとしました。

延べ参加者は 130 人でした。

8. 会員の加入

今年度「一般財団法人福島県民共済会」が加入したことにより、加盟団体は 20 団体となりました。

2016年度活動実施状況

月 日	会 議 ・ 活 動	備 考
4月～11月	小山ゼミ「おかわり農園」の活動支援	
4月～3月	再生可能エネルギーへの取り組みに実現に向けての事前調査・研究	
5月20日	監査・第1回幹事会（総会議案等を協議）	
6月15日	総会	
7月19日	「国際協同組合デー記念フォーラム」	
7月28日	「第45回神楽坂まつり」（ほおずき市）での県産農産物PR	
8月2日 ～3日	「2016よい仕事おこしフェア」での県農産物PR	
8月7日	「森と遊ぶ交流会」への協賛	
8月27日 ～28日	コヨット「〇〇〇〇〇〇〇〇」の取り組み支援	
9月17日 ～18日	コヨット「森遊びと五平餅づくり in ぼなり」の取り組み支援	
9月15日	第2回幹事会（上期の活動状況と下期の活動計画を確認）	
10月17日	第3回幹事会（絆で創生！ふくしまSTYLEシンポジウムの開催打合せ）	
11月12日 ～13日	「東京都食育フェア」での福島産農産物の安全・安心PR	
11月21日	「東京都生協連学習会」での講演・パネルディスカッションを通じた風評払拭活動	
11月23日	「ふくしま・かわまた米コンテスト」への協力	
12月1日	「絆で創生！ふくしまSTYLEシンポジウム」	
12月6日 ～7日	「産消提携型アグリツーリズムによる福島支援交流」	
2月21日	第4回幹事会（28年度の総括と29年度活動方針検討）	
2月28日	「発酵・醸造学が福島未来を拓くシンポジウム」	

再生可能エネルギーの取り組み実現に向けた調査・研究活動

4月～5月	<ul style="list-style-type: none"> ・事前調査・研究活動計画書の作成 ・情報収集活動(学術誌・論文・報告書・新聞など)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・J A福島中央会内部報告会 ・デントコーン(飼料・エネルギー作物)不耕起播種実演会(J A東西しらかわ東部営農センター)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・相馬市、南相馬市太陽光発電施設視察
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー関連学会参加、日本計画行政学会(関西学院大学) ・「農山漁村を豊かにする再生可能エネルギーのちから」(コラッセふくしま)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・「持続可能な農村地域をどう作るかドイツ・グロースパールドルフの試みから学ぶ」村田武講演会(福大行政大会議室) ・県内における再生可能エネルギー施設見学(会津電力太陽光、土湯温泉地熱発電)⇒福島パルシステム視察に参加 ・第5回ふくしま復興・再生可能エネルギー産業フェア2016(ビックパレット福島) ・南相馬市メタン発酵に関する研究(福島大学)打合せ ・県内木質バイオマス関連事業の現状調査(森連遠藤常務との打合せ)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・グラインドミル実演デモ(もみ殻を活用した取り組み)(会津若松市大戸町) ・世界ご当地エネルギー会議(コラッセふくしま)⇒ドイツエネルギー協同組合関係者とのワークショップに参加・意見交換 ・小水力発電セミナーに参加(会津稽古堂) ・福大委託研究(南相馬市)中間報告会に参加 ・南相馬ICT利用農機試演会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・「絆で創生!ふくしまSTYLEシンポジウム」における報告⇒福島県における再生可能エネルギー利活用の現状と課題 —農業・農村社会、協同組合という視点から— ・茨城土浦市食品メタン発酵バイオ施設見学
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・相馬復興支援プロジェクト活動報告会、相馬市千客万来館 ・シンポジウム「発酵・醸造学が福島の未来を拓く」(福島大学) ・南相馬地域における土地利用型農業振興の意見交換会(J Aふくしま未来原町総合支店)